

氏名	巻 幡 徹
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 269 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和43年 3 月31日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学 位 論 文 題 目	<b>C<sub>3</sub>H マウス乳癌におけるウイルス抗原の蛍光抗体法による研究</b> <b>第1報 C<sub>3</sub>H マウスにおける乳癌ウイルス抗原の精製とその蛍光抗体法直接法による検討</b> <b>第2報 C<sub>3</sub>H マウスにおける乳癌ウイルス抗原の蛍光抗体法補体法による観察</b>
論 文 審 査 委 員	教授 平 木 潔    教授 小 坂 淳 夫    教授 大 藤 真

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

C<sub>3</sub>H マウス乳癌はウイルス性腫瘍として知られている。著者は蛍光抗体法により乳癌ウイルス抗原の分布を観察せんとし、先ずウイルス抗原の分離精製法を吟味した。即ち濾過法超遠沈分画法及びFluorocarbon 処理法の3法でウイルス抗原液を作り、各々抗血清を作製し、蛍光抗体法直接法の染色結果により精製効果を吟味した。その結果 Fluorocarbon 処理法が最も精製効果が優れ同法による蛍光抗体を用いてウイルス抗原を粒子状蛍光として観察し得た。

次に著者は抗原検出感度の優れた補体法により乳癌ウイルスの感染、増殖及び発癌に至る経過におけるウイルス抗原の分布を観察し得た。

その結果、ウイルス抗原は乳癌組織の細胞間隙及び腺腔内に最も多くみられ、癌細胞の細胞膜内外に並ぶものもみられたが、核内又は核周にはみられず、更に転移リンパ節では少数を、脾では細網細胞内 Inclusion として認め得た。担癌マウスの腎、肺、脳骨髓更に正常 C<sub>3</sub>H マウスの各臓器及び授乳期乳腺組織ではウイルス抗原を認め得なかった。背部皮下に細胞移植を行なったマウスではウイルス抗原は48時間後には移植部位より消失し、10日後に後腹膜リンパ節に出現し、20日後に乳腺腫瘍内に出現した。

以上の如く蛍光抗体法補体法により原発乳癌及び細胞移植乳癌の移植より腫瘍形成に至る間の乳癌

ウイルス抗原の分布を明らかにし得たが、正常マウスの Milk factor については新知見は得られなかった。

(昭和43年2月岡山医学会雑誌第80巻1, 2号掲載予定)

#### 論文審査の結果の要旨

本研究は蛍光抗体法を用いて従来成し得なかったC<sub>3</sub>Hマウス乳癌における腫瘍ウイルス抗原の分布について精密な観察をし、重要な知見を得たもので価値ある業績であると認める。

よって本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。